

からだいきいきこころのびのみ
第2次
健康日本21安城計画

[2014年度(平成26年度)～2023年度]

中間評価報告書



平成30年6月

安城市

I 第2次健康日本21 安城計画の指標と目標値の設定

「第2次健康日本21 安城計画」では、市民・地域・行政が一体となって健康づくりを推進していくため、市民及び健康づくりを推進する関係者が取り組むべき具体的な指標と目標値を設定しました。様々な取り組みの結果を評価するため、10の分類について合わせて48項目、100指標を設定しています。

指標の設定にあたっては、国の「健康日本21」や県の「健康日本21 あいち計画」と同じ設定としたものと、市の調査結果や事業実績から独自の指標を設定したものとがあります。

平成25年度に策定した「第2次健康日本21 安城計画」は、第1次計画の最終評価結果を踏まえ、指標と目標値を設定しました。

<表1 設定分野と指標数>

基本方針	分類	項目数	指標
1 生活習慣を見直そう	(1) 生活習慣の改善と維持・向上 (成人期～高齢期)		
	ア 栄養・食生活	4	6
	イ 身体活動・運動	3	9
	ウ たばこ	2	3
	エ 歯・口腔の健康	3	3
	(2) 健康的な生活習慣の獲得		
	ア [妊娠前・妊娠期・出産期]	5	5
イ [乳幼児期] (0歳～就学前)	11	19	
ウ [学齢期] (小学生・中学生・高校生年代)	13	35	
2 病気を予防しよう	(1) こころの病気の予防 (成人期～高齢期)	3	6
	(2) 生活習慣病の予防 (成人期～高齢期)	3	13
3 健康を社会で支えよう	(1) 地域における健康づくり活動の活性化	1	1

II 中間評価の目的

「第2次健康日本21 安城計画」の策定時に設定した指標の目標達成状況について中間評価を行いました。

健康日本21 安城計画の推進、すなわち全ての市民の健康に向けた取り組みを進めた結果として、どのような効果や変化がみられたのかを評価・検証し、今後の健康づくりの推進に反映させることを目的としています。

III 中間評価の方法

(1) 評価手法と活用資料

各指標について、策定時の「基準値」と今回調査した「直近値」との比較を行い、その達成状況を表2の基準により判定、評価しています。

評価には、平成29年度に実施した健康に関する基礎調査結果、その他の各種実績データを活用しました。

また、指標ごとに達成状況から点数をつけ、分野ごとの評価点を算出しました。

評価点は、全ての指標がA（目標達成）の場合2点となり、指標数がA（目標達成）よりC（悪化）が多いと1点を切ります。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「A 目標達成」} \times 2 + \text{「B 目標未達成だが改善」} \times 1 + \text{「悪化」} \times 0}{\text{「D 評価不能」を除く指標数}}$$

<表2 評価区分の判定基準>

評価区分	点数	評価基準	判定基準
A	2点	目標達成	H29 目標値を達成
B	1点	目標未達成だが改善	H29 目標値が未達成だが、H24 基準値より改善
C	0点	悪化（未改善）	H29 目標値が未達成かつ、H24 基準値より悪化
D	—	評価不能	評価のデータなし

IV 全体の指標の目標達成状況

指標の目標達成状況は、全 100 指標のうち、目標達成（評価区分A）は 36 指標、目標未達成だが改善（評価区分B）は 23 指標で、全体の 59.0%で改善がみられました。一方、達成率により悪化（評価区分C）と評価したのは、34 指標で、全体の 34.0%となりました。

以上のように、この 5 年間、市民や各関係団体等とともに、目標の達成に向けて取り組んだ結果、多くの項目で一定の改善がみられました。しかしながら、「身体活動・運動」、「歯・口腔の健康」、「生活習慣病予防」の分野は、悪化した指標数が目標達成した指標数を上回っており、より一層の取組みの充実が求められています。

今後は、これらの結果をもとに、計画の目標年度である 2023 年度（平成 35 年度）までの 5 年間の中で着実に成果を上げていけるよう各分野においてライフステージに応じた健康づくりの取組みを推進していく必要があります。

<表3 分野別の指標の目標達成状況一覧>

(指標数)

分野	A 目標達成	B 目標未達成 だが改善	C 悪化 (未改善)	D 評価不能	評価点	総数
1 生活習慣を見直そう						
(1)生活習慣の改善と維持・向上（成人期～高齢期）						
(ア) 栄養・食生活	2	1	2	1	1.00	6
(イ) 身体活動・運動	2	1	5	1	0.63	9
(ウ) たばこ	1	1	1	0	1.00	3
(エ) 歯・口腔の健康	0	1	1	1	0.50	3
(2)健康的な生活習慣の獲得						
(ア) 妊娠前・妊娠期・ 出産期	4	1	0	0	1.80	5
(イ) 乳幼児期	6	7	6	0	1.00	19
(ウ) 学齢期	18	4	13	0	1.14	35
2 病気を予防しよう						
(1)こころの病気の予防 (成人期～高齢期)	2	0	1	3	1.33	6
(2)生活習慣病の予防 (成人期～高齢期)	1	7	5	0	0.69	13
3 健康を社会で支えよう						
(1)地域における健康づ くり活動の活性化	0	0	0	1	-	1
合計	36	23	34	7	1.02	100

<表4 「D 評価不能」の指標及び理由一覧>

No	指標	理由
1-1-(ア)	④「低栄養」が疑われる人の割合の増加を抑制する。(チェックリスト)	介護保険制度の改正により、平成29年度から安城市の介護予防事業の実施体制を変更したことから、指標である基本チェックリストの実施方法も変更となり、評価不能となったため
1-1-(イ)	③「運動器の機能低下」が疑われる人の割合の増加を抑制する。(チェックリスト)	
1-1-(I)	③「口腔機能の低下」が疑われる人の割合を減らす。(チェックリスト)	
2-(1)	③「閉じこもり・認知症・うつ」が疑われる人の割合の増加を抑制する。(チェックリスト)	
		閉じこもりの疑い
		認知症の疑い
		うつの疑い
3-(1)	①地域の活動に参加している人を増やす。(安城市地域福祉計画基礎調査)	18歳以上 安城市地域福祉計画基礎調査の項目変更により評価不能となったため

V 分野別の評価結果

1 生活習慣を見直そう

(1) 生活習慣の改善と維持・向上 (成人期～高齢期)

ア 栄養・食生活

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

自分にあった食事量を知り、栄養バランスのとれた食事をしよう

- 適正体重を認識し、食事量と栄養バランスに配慮した食事ができるようになることをめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	2	1	2	1
構成比	33.3%	16.7%	33.3%	16.7%

指標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
①栄養バランスに配慮している人の割合を増やす。(アンケート)	20歳以上	61.7%	64.9%以上	68%以上	67.3%	A
②生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合を減らす。(特定健診)	40～74歳男性	16.3%	15%以下	13%以下	15.9%	B
	40～74歳女性	16.4%	15%以下	13%以下	13.6%	A
③BMI判定標準の人の割合を増やす。(特定健診)	40～74歳男性	69.0%	70.6%以上	73%以上	67.6%	C
	40～74歳女性	69.1%	70.7%以上	73%以上	67.3%	C
④「低栄養」が疑われる人の割合の増加を抑制する。(チェックリスト)	65歳以上	4.4%	6%以下	8.5%以下	判定不能	D

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
特定保健指導	国保年金課、健康推進課
あんじょう健康マイレージ事業、健康測定会、健康に関する啓発、データヘルス推進事業、カラダいきいき栄養相談、市民健康講座、食生活改善普及事業、保健相談	健康推進課
食育推進事業	農務課
まちかど講座	生涯学習課、健康推進課

■主な取組状況

- 市民健康講座や「朝食のすすめ」等、食生活改善普及事業をとおして栄養バランスや食生活の見直しなどについて、知識普及を図りました。
- 相談や特定保健指導を行うことによって肥満予防や生活習慣病のリスクを高める飲酒量など、食生活の見直しについて個別指導を行いました。
- BMI判定により、自分の体型を認識し、体重測定を習慣化するきっかけづくりとして平成26年度からあんじょう健康マイレージ事業を開始しました。
- 保健所は、飲食店などの協力による食育推進協力店で、提供及び販売する飲食物に対して栄養成分表示を依頼したり、食育に関する情報提供をしました。
- 事業所は、従業員に対して個人や家族の栄養や食生活に関心がもてる機会をつくりました。
- 働く世代への啓発として、事業所と協力し、自分の体型を認識し、栄養バランスのよい食生活に見直すための健康測定会などを実施しました。
- 高齢者に対しては、まちかど講座を通して栄養の必要性について知識普及を図りました。

■主な取組の評価

- 栄養バランスに配慮している人の割合は増加し、目標を達成しています。20歳代から30歳代で特に増えており、その他の年代でも増えていることから、市民全体の意識が向上したと言えます。
- 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合は、男女ともに減少しています。一方で、「健康に関する基礎調査」では、平成24年度より男女とも増えており、県も同様の傾向となっています。
- BMI判定標準の人の割合は、男女ともに減少しています。「健康に関する基礎調査」では、肥満の割合は、勤労世代である40歳代、50歳代の男性で多く、やせの割合は20歳代、30歳代の女性で多くなっています。

■今後の方向性

- 栄養が過不足なくとれるよう栄養のバランスを意識することを周知していきます。
- 自分の適正体重を認識し、自分の食生活を振りかえる機会をつくり、自分に合った食事量について知識普及を図るため、事業所、団体、行政で協力していきます。

<生活習慣病のリスクを高める飲酒量>

男性で1日平均日本酒2合以上、女性で1合以上を飲酒している者を指しています。

<BMI判定（肥満度の判定）>

$BMI = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$

BMI	判定
18.5 未満	やせ
18.5 以上 25.0 未満	標準
25.0 以上	肥満

イ 身体活動・運動

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

生活の中で活発にからだを動かそう

- 運動する時間をつくっていない人は、生活の中でからだを活発に動かすようになることをめざします。また、運動している人は運動習慣を維持することをめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	2	1	5	1
構成比	22.2%	11.1%	55.6%	11.1%

指 標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
①歩行などの身体活動を1日1時間以上する人の割合を増やす。(特定健診)	40～64 歳男性	39.0%	39.8%以上	41%以上	43.0%	A
	40～64 歳女性	33.7%	34.2%以上	35%以上	39.2%	A
	65 歳以上男性	53.9%	55.1%以上	57%以上	51.6%	C
	65 歳以上女性	46.7%	47.6%以上	49%以上	45.1%	C
②1日30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。(特定健診)	40～64 歳男性	31.9%	33.1%以上	35%以上	30.1%	C
	40～64 歳女性	26.7%	27.2%以上	28%以上	25.6%	C
	65 歳以上男性	49.1%	50.3%以上	52%以上	48.8%	C
	65 歳以上女性	39.4%	40.4%以上	42%以上	39.7%	B
③「運動器の機能低下」が疑われる人の割合の増加を抑制する。(チェックリスト)	65 歳以上	54.4%	54.6%以下	55%以下	判定不能	D

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
頭もからだもスッキリ体夢、からだしゃっきり体夢、町内会健康体操教室	高齢福祉課
特定保健指導	国保年金課、健康推進課
あんじょう健康マイレージ事業、健康測定会、健康づくりきっかけ教室、健康の道ウォーキング、健康に関する啓発、データヘルス推進事業、親がお手本！デンタルケア教室、市民健康講座、保健相談、ボディメイクプログラム	健康推進課
自転車による健康づくりの推進	都市計画課
公園整備事業	公園緑地課
まちかど講座	生涯学習課、健康推進課
スポーツスクール・体力測定会	スポーツ課

■主な取組状況

- 身体活動について、国のアクティブガイドの指針から、今より10分多くからだを動かすことをすすめる「プラス10」を幅広い年代に向け、様々な機会で開催しました。
- 運動習慣の少ない世代を対象とした運動教室などを実施しました。
- 幼稚園、保育園児の保護者を対象として親子で楽しくからだを動かす大切さについて、実践を伴った知識普及を行いました。
- データヘルス推進事業から、運動習慣のある人が県や国と比較して少ない状況であったため、健康に関するデータから見た運動の必要性に関する啓発を行いました。
- 健康測定会やウォーキングイベント、親子向けの体力測定会を実施し、また事業所や地域団体等でも楽しくからだを動かす機会をつくりました。
- 高齢者の運動機能の向上のため、定期的に町内会健康体操教室や福祉センターで介護予防教室を開催しました。

■主な取組の評価

- 1日1時間以上身体活動をしている人の割合は、40歳～64歳の年代では最終目標を達成しましたが、65歳以上では減少しました。家事、労働などの生活活動を身体活動として認識していない人がいる可能性があります。
- 1日30分以上の運動をしている人の割合は、65歳以上の女性を除き減少しました。しかし、「健康に関する基礎調査」では、外出などにより1日30分以上歩いている人の割合は65歳以上で増えています。健康のために運動や体を動かす必要があると思う成人の割合は7割以上と高くなっており、必要性を感じながらも運動に取り組んでいない状況となっています。

■今後の方向性

- 身体活動について正しく認識し、日常生活の中で身体活動を増やすための支援をしていきます。
- 運動している人が運動を継続できるよう支援していきます。

ウ たばこ

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

たばこの健康への影響を知り、受動喫煙を防ごう

- ▶ たばこの健康への影響を理解している人を増やし、たばこを習慣的に吸っている人の減少と、受動喫煙に配慮している人や施設などの増加をめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	1	1	1	0
構成比	33.3%	33.3%	33.3%	—

指標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
①たばこを習慣的に吸っている人の割合を減らす。(特定健診)	40~74 歳男性	23.6%	20.2%以下	15%以下	22.4%	B
	40~74 歳女性	4.2%	3.6%以下	2.6%以下	4.5%	C
②受動喫煙防止に配慮している施設を増やす。 (受動喫煙防止対策実施施設データベース)		336 施設	356 施設	386 施設	467 施設	A

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
公的施設の禁煙状況の確認と禁煙化推進	企画情報課、健康推進課
特定保健指導	国保年金課、健康推進課
禁煙支援機関の周知、健康測定会、健康に関する啓発、親がお手本！ デンタルケア教室、市民健康講座、保健相談	健康推進課
まちかど講座	生涯学習課、健康推進課

■主な取組状況

- 禁煙支援機関で禁煙したい人の支援を行うとともに、禁煙支援機関の周知をしました。
- 喫煙者には健診の結果説明や特定保健指導の機会を活用し、個別指導を行いました。
- たばこ、受動喫煙の害については、市民健康講座やまちかど講座、健康測定会を実施し、知識普及を図りました。
- 事業所では受動喫煙を防ぐ環境を整備するとともに、従業員に対し、たばこが健康に及ぼす影響についての知識普及を図りました。
- 保健所と連携し、受動喫煙防止対策施設が増えるよう周知しました。

■主な取組の評価

- 喫煙率は、目標に達していませんが、男性では、喫煙率は減少傾向で、女性の喫煙率は、悪化となりました。「健康に関する基礎調査」でも女性は悪化しており、特に20歳代～40歳代で高くなっていますが、市民全体の喫煙者の割合は減少しています。
- 受動喫煙に配慮している施設数は増加しており、目標は達成しています。
- 喫煙や受動喫煙などたばこに関する状況は、様々なたばこ対策が影響しています。

■今後の方向性

- 望まない受動喫煙の機会を減らすため、喫煙や受動喫煙が健康に及ぼす影響について啓発していきます。

工 歯・口腔の健康

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

歯・口腔を健康に保つ生活をしよう

- 生涯にわたり、健康な歯・口腔を保つことができるように、必要な生活習慣を身につけることをめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	0	1	1	1
構成比	—	33.3%	33.3%	33.3%

指標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
①歯の健康づくり得点 16 点以上の人の割合を増やす。(歯周病検診)	40・45・50・55・60・65・70 歳	39.9%	40.7%以上	42%以上	35.3%	C
②8020 達成者を増やす。(アンケート)	75～84 歳	42.5%	46.3%以上	50%以上	46.1%	B
③「口腔機能の低下」が疑われる人の割合を減らす。(チェックリスト)	65 歳以上	60.3%	59.0%以下	57%以下	判定不能	D

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
あんじょう健康マイレージ事業、健康測定会、親がお手本！デンタルケア教室、歯周病検診、市民健康講座、保健相談	健康推進課
頭もからだもスッキリ体夢、町内会健康体操教室	高齢福祉課
まちかど講座	生涯学習課、健康推進課

■主な取組状況

- 園や学校の協力のもと、子ども・保護者の歯科保健の知識普及を図りました。
- 歯科医療機関では、歯周病検診受診時等で、歯や口の清掃習慣指導、早期治療等への助言を行い、歯や口腔を健康に保つ生活ができるように支援しました。
- 安城市歯科医師会は、健康づくりのイベントにて、歯周病の予防に有用なフロスの必要性や使用法を周知し、無料相談も行いました。
- 事業所では、会議や健診の機会を活用し、歯や口腔を健康に保つための啓発をしました。

- 町内会健康体操教室では、口腔機能の維持・増進のための口腔体操も取り入れて行いました。

■主な取組の評価

- 歯の健康づくり得点 16 点以上の人の割合は減少していますが、「健康に関する基礎調査」では、平成 24 年度より、16 点以上の人の割合は増えています。
- 目標は達成していませんが、自分の歯が、60 歳（55～64 歳）で 24 本以上、80 歳（75～84 歳）で 20 本以上ある人の割合は増えており、年齢を重ねても自分の歯で食べることができる人が増えています。

■今後の方向性

- 適切な歯科保健行動につながる人を増やすため、様々な機会をとらえて支援をしていく必要があります。

<歯の健康づくり得点>

歯の健康を保つために良い生活をしているか、10 問の設問で点数化したものです。20 点満点で 16 点以上あると、8020 を達成できる可能性が高くなります。

【歯の健康づくり得点のアンケート項目と点数】

項目	はい	いいえ
歯ぐきが腫れることがありますか	0 点	4 点
歯がしみることがありますか	0 点	3 点
間食をよくしますか	0 点	3 点
趣味がありますか	3 点	0 点
かかりつけの歯医者さんはいますか	2 点	0 点
歯の治療は早めに受けるようにしていますか	1 点	0 点
歯ぐきから血が出ることがありますか	0 点	1 点
歯磨きを 1 日 2 回以上していますか	1 点	0 点
自分の歯ブラシがありますか	1 点	0 点
たばこを吸いますか	0 点	1 点

(2) 健康的な生活習慣の獲得

ア 妊娠前・妊娠期・出産期

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

安心・安全に妊娠・出産を迎えよう

- 妊産婦が自分の健康管理ができるようになること、親としての自覚を持ち育児ができることをめざします。また、妊産婦の健康に配慮し、サポートできる環境づくりをめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	4	1	0	0
構成比	80.0%	20.0%	—	—

指標	現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
①妊婦の貧血を減らす。(妊婦健康診査)	47.6%	46.6%以下	45%以下	34.7%	A
②同居家族に喫煙者がいない 家庭を増やす。(乳幼児健診)	4か月児 保護者 61.1%	68.7%以上	80%以上	65.0%	B
③妊婦歯科健康診査受診率を増やす。 (妊婦歯科健康診査)	37.4%	38.8%以上	41%以上	48.0%	A
④育児に参加する父親を増やす。 (乳幼児健診)	4か月児 保護者 52.8%	54.9%以上	58%以上	58.0%	A
⑤母性健康管理指導事項連絡 カードを知っている就労妊婦 を増やす。(乳幼児健診)	4か月児 保護者 37.5%	38.9%以上	41%以上	49.3%	A

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
養育支援訪問事業	子育て支援課
健康に関する啓発、妊婦歯科健診、妊産婦健診、妊産婦相談、パパママ教室、訪問事業、母子健康手帳交付、マタニティサロン、マタニティマーク啓発	健康推進課

■主な取組状況

- 母子健康手帳交付等を通し、妊娠、出産に関わる相談に応じ、必要な情報を提供しました。また、平成 28 年度より妊婦全員にマタニティケアプランを実施し、一人ひとりの妊婦に応じたサービスの提供、案内を実施しました。
- 母子健康手帳交付時や乳幼児健診等で、喫煙者のいる家庭に対し、受動喫煙の害について個別指導を行いました。
- 医療機関等は、妊産婦健診等（医科・歯科）で受診する機会を通じて、相談や指導などを実施し、妊産婦が自分の健康管理ができるよう必要な支援をしました。また、支援が必要な妊産婦に対して、関係機関と連携して支援しました。
- パパママ教室やキャンペーンなどで、マタニティマークや産後うつ等の啓発をし、妊産婦をサポートできる環境を整えてきました。
- 市民活動団体は、妊娠中や産後の不安を軽減するため、妊産婦の交流の場や相談の機会を提供しました。

■主な取組の評価

- 妊婦の貧血について、減少傾向で最終目標を達成しています。「健康に関する基礎調査」では、栄養バランスに気をつけている 20 歳代女性の割合は 61.9%と他の年代より低くなっていますが、妊娠を機に、妊婦健診の場面などで食事についての正しい知識を持つなど、食習慣への関心が高まったことが影響したと考えられます。
- 同居家族の喫煙については、喫煙者のいない家庭は増えていますが、目標値には達していません。成人の喫煙率は低くなっており、受動喫煙を防ぐ機会の減少につながっています。
- 母性健康管理指導事項連絡カードを知っている妊婦は増えており、最終目標を達成しています。また、育児に参加する父親も増えており、最終目標を達成しています。就労妊婦の割合も増えており、妊産婦への健康に配慮し、サポートできる環境が整ってきています。

■今後の方向性

- 安心・安全に妊娠・出産を迎えるために、引き続き、妊娠、出産、子育てに関する相談に応じ、必要に応じて情報提供をしていく必要があります。また、保健・医療・福祉等との関係機関と連携し、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援を行うことが必要です。

イ 乳幼児期（0歳～就学前）

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

子どもが、健康的な生活習慣を身につけられるようにしましょう

- 保護者が健康についての正しい知識を持ち、子どもに健康的な生活習慣を身につけさせることをめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	6	7	6	0
構成比	31.6%	36.8%	31.6%	—

指標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
①離乳食講習会の参加率を増やす。(離乳食講習会)	前期離乳食講習会	30.1%	32.1%以上	35%以上	32.2%	A
	後期離乳食講習会	23.7%	24.6%以上	26%以上	26.6%	A
②栄養バランスに気をつけている人を増やす。(アンケート)	0～3歳児保護者	68.8%	70.4%以上	72%以上	67.3%	C
	5～6歳児保護者	71.3%	73.2%以上	75%以上	75.6%	A
③からだを使った遊びや運動をさせている人を増やす。(アンケート)	0～3歳児保護者	88.5%	90.8%以上	93%以上	88.9%	B
	5～6歳児保護者	83.2%	85.1%以上	87%以上	83.8%	B
④同居家族に喫煙者がいない幼児を増やす。(乳幼児健診)	1歳6か月児	59.6%	67.8%以上	80%以上	64.2%	B
	3歳児	57.6%	66.6%以上	80%以上	63.6%	B
⑤う蝕のない幼児を増やす。(乳幼児健診)	3歳児	87.0%	90.2%以上	95%以上	89.9%	B
⑥定期的に歯科健診を受けている幼児を増やす。(乳幼児健診)	3歳児	46.2%	48.1%以上	51%以上	54.8%	A
⑦給食後に歯みがきを実施している幼稚園・保育園を増やす。(地域歯科保健業務状況報告)	5歳児	89.7%	93.8%以上	100%	90.0%	B
⑧乳児健診(2回目)を受診する子を増やす。(乳児健診)	6～10か月児	79.7%	83%以上	88%以上	85.7%	A
⑨予防接種を受ける子を増やす。(予防接種)	麻疹風しん1期	96.8%	96.9%以上	97%以上	94.2%	C
	麻疹風しん2期	91.1%	92.7%以上	95%以上	91.9%	B

指標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
⑩子どもの事故予防をしている家庭を増やす。(乳幼児健診)	4か月児保護者	73.4%	76.4%以上	81%以上	70.2%	C
	1歳6か月児保護者	45.4%	47.2%以上	50%以上	50.6%	A
⑪子育てに関する相談相手のいない人を減らす。(乳幼児健診)	4か月児保護者	1.2%	1.2%以下	1.1%以下	2.6%	C
	1歳6か月児保護者	2.1%	2%以下	1.9%以下	3.4%	C
	3歳児保護者	2.4%	2.3%以下	2.2%以下	3.2%	C

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
未熟児養育医療制度	国保年金課
ささえねっとでの啓発、生活習慣自立セミナー	子育て支援課、健康推進課
支援センターでの啓発、つどいの広場事業、養育支援訪問事業	子育て支援課
一時保育、園での歯みがき指導・栄養指導、園での歯科健康診査と健診結果の通知、健康だよりの発行、発達・発育に合わせた遊び方を伝える、園でのフッ化物洗口	保育課
1歳6か月児健診事後指導会、乳幼児健診、発達心理相談、予防接種事業、育児相談、スクスク子育て相談室、訪問事業、離乳食講習会	健康推進課
献立表での知識の啓発	総務課
子育て・親育ち広場運営事業、まちかど講座	生涯学習課、健康推進課
乳幼児学級、家庭教育学級	生涯学習課
スポーツ行事、スポーツスクール	スポーツ課

■主な取組状況

- 離乳食講習会は平成28年度から対象者を乳児の家族だけでなく、協力者に広げ、平成29年度からは身近な場所で受講できるよう会場を2か所増やし実施しました。
- 乳幼児健診で、栄養や遊びをテーマに入れた集団指導を実施し、園では園児に栄養指導、保護者向けに献立表を使い、栄養バランスなどの情報提供をしました。
- 受動喫煙の害について乳幼児健診や園でのデンタルケア教室、予防接種の通知など様々な機会に啓発しました。
- 1歳6か月児、3歳児健診では平成29年度からかかりつけ歯科医連絡票を導入し、園では歯科健診結果を保護者に通知し、歯科診療が必要な児をかかりつけ歯科医につなげています。
- 1歳6か月児、3歳児健診ではフッ化物塗布を実施するとともに、う蝕のリスクが高い児の保護者にチラシにより予防知識を啓発しました。
- 平成29年度から、園医の協力を得て園でのフッ化物洗口を開始しました。また、歯の健康づくりを進める会議を開催し、歯科医師会、園、小中学校、行政で課題を共有し、関係機関と連携を図る機会を設けました。

- 麻しん風しん予防接種の未接種の保護者に対しては、勧奨通知を行うとともに、就学時健診時にも勧奨を行い接種を促しました。
- 子どもの事故予防については、妊娠期のパパママ教室をはじめ、乳幼児健診など様々な機会啓発を行いました。
- 子育ての不安の軽減のため、赤ちゃん訪問をはじめ、関係機関が様々な相談機会を設けるとともに、つどいの広場など、様々な団体が子育てしている保護者が集える場をつくりました。
- 子育て世代包括支援センターを開設し、子育てについて相談できる相談窓口を様々な機会周知しました。

■主な取組の評価

- 離乳食講習会の参加率が上昇し、後期離乳食講習会では最終目標を達成しています。参加対象を広げ、会場を拡大したことが影響したと考えられます。
- 栄養バランスに気をつけている人は、0～3歳児の保護者では、減少していますが、1歳6か月児（73.0%）、3歳児（80.4%）の保護者では目標値を超えています。
- からだを使った遊びや運動をさせている人は横ばいですが、運動の必要性を感じている保護者は9割以上と高く、また、8割以上の保護者は運動をさせています。
- 同居家族の喫煙は改善の傾向がみられます。しかし、「健康に関する基礎調査」では、子どもの年齢があがるにつれ、子どものいるところでたばこを吸う人の割合が増えています。
- 定期的に歯科健診を受診している人は増加し、最終目標を達成していますが、う蝕のない幼児、給食後に歯みがきを実施している園を増やすという目標は達成できていません。
- 麻しん風しん1期の予防接種の接種率は減少しています。2期の接種率は目標は達成しませんでした。接種率は増加しました。
- 子どもの事故予防対策をしている家庭は1歳6か月児保護者では最終目標を達成しましたが、4か月児保護者では減少しています。しかし、4か月児保護者の7割以上の人が事故予防対策に取り組んでおり、1歳6か月児より20ポイント以上高くなっています。
- 様々な機会周知しましたが、相談相手のいない人の割合が増えています。

■今後の方向性

- 引き続き、保護者に健康的な生活習慣を身につけられるよう知識普及を図るとともに、乳幼児健診の受診勧奨や予防接種未接種者への接種勧奨をしていくなど、子どもの成長発達に合ったサービスが受けられるようにしていく必要があります。
- 安心して子育てができるよう継続して相談窓口の周知に努めるとともに、多様な支援環境を充実させていく必要があります。

ウ 学齡期 (小学生・中学生・高校生年代)

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

子どもが、健康的な生活習慣を身につけられるようにしよう

- 子どもが、健康についての正しい知識を持ち、健康的な生活習慣を身につけられることをめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	18	4	13	0
構成比	51.4%	11.4%	37.1%	—

指標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価	
①朝食を欠食する子を減らす。(アンケート)	小3保護者	2.1%	1.7%以下	1.3%以下	1.7%	A	
	小学6年生	2.7%	2.7%以下	2.7%以下	4.5%	C	
	中学3年生	7.6%	7.2%以下	6.8%以下	8.7%	C	
	高校生	7.9%	7.6%以下	7.3%以下	6.0%	A	
②やせ・肥満の子を減らす。(発育と健康状態)	やせすぎ	小学生男子	1.2%	1.2%以下	1.1%以下	1.5%	C
		小学生女子	1.1%	1.1%以下	1.1%以下	1.3%	C
		中学生男子	1.5%	1.5%以下	1.4%以下	2.8%	C
		中学生女子	3.5%	3.4%以下	3.3%以下	3.6%	C
	太りすぎ	小学生男子	7.8%	7.6%以下	7.4%以下	7.0%	A
		小学生女子	6.1%	6%以下	5.8%以下	6.2%	C
		中学生男子	9.5%	9.3%以下	9.0%以下	8.5%	A
		中学生女子	7.5%	7.3%以下	7.1%以下	7.7%	C
③運動をしていない子を減らす。(アンケート)	中学3年生	20.9%	20%以下	19%以下	17.3%	A	
	高校生	38.3%	36.2%以下	34%以下	38.1%	B	
④未成年者の喫煙をなくす。(アンケート)	中学3年生	1.4%	0.7%以下	0%	0.4%	A	
	高校生	1.9%	1.0%以下	0%	0%	A	
⑤未成年者の飲酒をなくす。(アンケート)	中学3年生	7.4%	3.7%以下	0%	2.9%	A	
	高校生	3.5%	1.8%以下	0%	0%	A	

指 標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
⑥家庭でのコミュニケーションがとりやすい子を増やす。 (全国学力・学習状況調査)	小学6年生	74.5%	77.5%以上	82%以上	76.6%	B
	中学3年生	62.4% (H25)	65%以上	69%以上	71.8%	A
⑦相談できる人がいない子を減らす。(アンケート)	小学3年生	2.9%	1.5%以下	0%	3.8%	C
	小学6年生	8.4%	4.2%以下	0%	9.7%	C
	中学3年生	10.7%	5.4%以下	0%	10.5%	B
	高校生	9.5%	4.8%以下	0%	8.1%	B
⑧過度のストレスを抱える子を減らす。(アンケート)	高校生	26.1%	25.6%以下	25%以下	22.8%	A
⑨歯肉に炎症所見のある子を減らす。(地域歯科保健業務状況報告)	中学3年生	5.2%	5.1%以下	5.0%以下	2.6%	A
⑩う蝕のない子を増やす。(地域歯科保健業務状況報告)	中学1年生	68.6%	72%以上	77%以上	72.3%	A
⑪定期的に歯科健診を受けている子を増やす。(アンケート)	小3保護者	73.5%	77.3%以上	81%以上	73.5%	C
	小6保護者	60.6%	63.8%以上	67%以上	66.9%	A
	中3保護者	41.3%	43.2%以上	45%以上	46.3%	A
	高校生	23.8%	24.9%以上	26%以上	35.8%	A
⑫健康推進課が行う学校での健康教育の実施数を増やす。 (思春期の健康教育)	中学3年生	3校	5校	8校	5校	A
⑬子育てに関する相談相手のいない人を減らす。(アンケート)	小3保護者	4.3%	4.1%以下	3.9%以下	6.1%	C
	小6保護者	5.1%	4.9%以下	4.6%以下	4.9%	A
	中3保護者	7.4%	7.2%以下	7.0%以下	8.5%	C

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
赤ちゃんふれあい交流事業	子育て支援課
学校へ歯科衛生士派遣、教材、物品の貸し出し、啓発チラシ(タバコ・アルコール等)配布、健康教育、思春期保健相談、保護者への健康教育	健康推進課
子どもに食に関する指導	総務課
身体測定結果の通知、相談機関の紹介・周知、長放課等での外遊びの推進、ふれあい学級、ふれあい相談、フッ化物洗口、保健だより	学校教育課

■主な取組状況

- 中学1年生の授業で、朝食の大切さについて伝えました。
- 学校で定期的に身体測定を実施し、保護者に結果を通知しました。
- 小学校では、長放課に外遊びをすすめる取り組みをしました。
- 喫煙・飲酒の害については、学校での授業やチラシを配布するなどの啓発を行いました。
- 自己肯定感を高めるための「いのちの教育」を市の教育指導方針に掲げ、各学校で取り組みました。
- う蝕予防のためのフッ化物洗口を小学校全校、全学年で実施しました。
- 学校の協力、学校歯科医の理解のもと、愛知県歯科衛生士会の歯科衛生士が小学校に出向き、子ども自身が取り組むむし歯や歯肉炎の予防方法について伝えました。
- 思春期の健康教育として「性・生」をテーマに学校に出向き実施しました。また、学齢期保健をすすめる連絡会議において園、小中学校、高校、医療機関、行政で課題等を共有し、関係機関が連携を図る機会を設けました。
- 保護者が集う地域団体や市民活動団体などによるイベントや行事が、保護者同士が交流する機会につながりました。

■主な取組の評価

- 朝ごはんを食べていない小学6年生、中学3年生が増えており、成人全体でも、平成24年度と比較して2.4%増えています。
- 女子ではやせすぎ、太りすぎの子がわずかですが増えており、標準の子の割合は減少しています。太りすぎの子は男子では減少し、目標を達成していますが、女子よりも割合は多くなっています。
- 運動していない子は中学3年生で減少し、最終目標を達成しています。
- 喫煙率、飲酒率はともに改善傾向で、高校生は目標を達成しています。
- 相談できる相手がいない小学生は増加しています。最初に相談する相手としては、小学生では「母」が多く、中学3年生と未成年では「友人」が多くなっています。家庭でのコミュニケーションがとりやすい子は、中学3年生では増え、目標を達成しています。
- 小学校でのフッ化物洗口の効果もあり、う蝕のない子は増え、目標を達成しています。
- 健康推進課が行う思春期の健康教育を実施している学校数は増えており、目標を達成しています。学校独自のプログラムで実施している学校もありますが、全校実施はできていません。
- 子育てに関する相談相手のいない人は小学6年生の保護者では減少傾向ですが、小学3年生及び中学3年生の保護者で増加しています。家族で子育てをしていると思う保護者は、していないと思う保護者に比べ、ストレスを解消できている割合が高くなっており、家族で子育てをしていると思う保護者は増えています。

■今後の方向性

- 子どもが、からだもこころも健康的な生活習慣を身につけられるよう関係機関と連携し、支援していく必要があります。

2 病気を予防しよう

(1) こころの病気の予防 (成人期～高齢期)

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

ストレスとうまくつきあおう

- 自分のこころの状態に関心を持ち、悩みを相談したり、自分に合ったストレス解消方法を持ち、ストレスとうまくつきあえるようになることをめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	2	0	1	3
構成比	33.3%	—	16.7%	50.0%

指標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
①過度のストレスや悩みを相談できる人の割合を増やす。(アンケート)	20歳以上男性	42.5%	44.8%以上	47%以上	49.6%	A
	20歳以上女性	70.1%	73.6%以上	77%以上	64.8%	C
②睡眠時間が十分にとれていない人の割合を減らす。(特定健診)	40～74歳	25.8%	24.7%以下	23%以下	24.2%	A
③「閉じこもり・認知症・うつ」が疑われる人の割合の増加を抑制する。(チェックリスト)	65歳以上 閉じこもりの疑い	9.4%	11.6%以下	15%以下	判定不能	D
	65歳以上 認知症の疑い	51.0%	54.6%以下	60%以下		D
	65歳以上 うつの疑い	44.8%	46.1%以下	48%以下		D

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
特定保健指導	国保年金課、健康推進課
精神保健相談	障害福祉課
頭もからだもスッキリ体夢、町内会健康体操教室	高齢福祉課
健康測定会、健康に関する啓発、家族のためのこころホッと相談日、市民健康講座、保健相談	健康推進課
若者の社会的自立を目指す総合相談窓口	商工課
まちかど講座	生涯学習課、健康推進課
シルバーカレッジ	生涯学習課

■主な取組状況

- 女性はライフスタイルに応じた役割の変化が大きいいため、様々な機会をとらえて相談することの大切さを伝えました。
- 精神保健相談や若者の社会的自立を目指す総合相談、家族のためのこころホッと相談日、心配ごと相談など、保健所をはじめ、行政機関、事業所、市民活動団体が様々な相談を実施しました。
- 地域団体などが、地域住民が集う機会を提供し、住民同士の交流の場にもなりました。
- 平成26年度から、まちかど講座のテーマに「こころの健康（ゲートキーパーに関する内容）」を取り入れました。また、平成27、28年度にはこころの健康づくりに関する講演会を実施し、こころの病気を身近な問題として考えるための機会を提供しました。自殺予防週間や自殺対策強化月間にこころの健康について啓発をしました。
- 事業所は、従業員のこころの健康を保つために、こころの健康対策に取り組みました。
- 高齢者のこころの健康を保つために、シルバーカレッジや公民館講座、まちかど講座を実施しました。

■主な取組の評価

- 過度のストレスや悩みを相談できる人の割合は男性では増加し、最終目標を達成していますが、女性よりも割合が低くなっています。男性の中でも50歳代が過度のストレスや悩みを相談できる人の割合が低く、仕事上の問題が大きくなる年代と考えられます。
- 女性では過度のストレスや悩みを相談できる人の割合は減少し、40歳代以外の年代で目標を達成していません。国勢調査の結果から、平成12年から平成27年の間の安城市の女性の就労率の推移を見ると、20歳代以上のすべての世代で上昇しており、女性の社会進出が進んでいることも、一因と考えられます。
- 睡眠時間が十分にとれていない人の割合は減少しており、目標を達成しています。

■今後の方向性

- ライフステージに応じた様々な悩みに対して相談窓口の周知を図るとともに、相談しやすい環境を整える必要があります。
- 自分や周囲の人のこころの変化に気づき、相談することの大切さなど、こころの健康について知識の普及を図っていく必要があります。

(2) 生活習慣病の予防（成人期～高齢期）

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

定期的に健診を受け、生活習慣病に対する自己管理をしよう

- 定期的に健診を受け、自らの健康を自己管理するための知識を持ち、必要な行動がとれるようになることをめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	1	7	5	0
構成比	7.7%	53.8%	38.5%	—

指 標		現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価	
①自分の健康に関心をもち、定期的に健診を受ける人を増やす。(特定健診・がん検診)	特定健康診査	40～74 歳	40.0%	60%以上	60%以上	43.8%	B
	各種がん検診	40～69 歳	(胃) 25.5%	40%以上	—	25.6%	B
		40～69 歳	(大腸) 32.5%	40%以上	—	33.1%	B
		40～69 歳	(肺) 29.0%	40%以上	—	31.7%	B
		20～69 歳	(子宮) 38.1%	50%以上	—	36.7%	C
		40～69 歳	(乳) 33.6%	50%以上	—	35.6%	B
	各種がん検診 精密検査	40 歳以上	(胃) 84.0%	86%以上	90%以上	74.2%	C
		40 歳以上	(大腸) 77.2%	81.5%以上	90%以上	64.9%	C
		40 歳以上	(肺) 74.6%	79.7%以上	90%以上	74.9%	B
		20 歳以上	(子宮) 76.9%	81.3%以上	90%以上	81.7%	A
		40 歳以上	(乳) 88.4% (H23)	88.9%以上 (H28)	90%以上 (2022)	81.5% (H28)	C
②特定保健指導を受ける人を増やす。(特定健診)	40～74 歳	21.4%	60%以上	60%以上	24.1%	B	
③メタボリックシンドロームの予備群・該当者を減らす。(特定健診)	40～74 歳	28.5%	20%以下	20%以下	29.5%	C	

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
特定健康診査事業、特定保健指導	国保年金課、健康推進課
あんじょう健康マイレージ事業、医療機関一覧、健康測定会、健康に関する啓発、データヘルス推進事業、各種がん検診事業、がん検診受診率向上プロジェクト、市民ドック事業、精密検査結果把握事業、ヤング健診、市民健康講座、健康手帳の交付、女性のための健康教育、保健相談	健康推進課
まちかど講座	生涯学習課、健康推進課

■主な取組状況

- 特定健康診査受診率の向上のため、平成 29 年度は未受診の状況に合わせた受診勧奨通知を送付するとともに、6月の特定健診等普及啓発月間で啓発しました。
- がん検診では、子宮頸がん、乳がん検診で対象の年齢の方に無料クーポン券を配布し、未利用者に勧奨を行いました。健康保険組合と協力し、特定健康診査の通知時にがん検診の周知を図りました。
- 精密検査対象で未受診の方には手紙や電話で勧奨を行うとともに、医療機関と連携して、未受診者の状況把握をしました。
- 特定保健指導は、効率的な実施と受講者同士の生活改善に取り組む意識向上を図るため、平成28年度から集団での実施を開始し、平成29年度からは特定健診当日に特定保健指導を実施できるようにしました。また、実施機関の理解を深め、調整を図るため連絡会を開催しました。
- データヘルス推進事業では、健診と医療レセプトを使って健康課題を整理し、健康度の見える化を図りました。
- 健診実施機関では健診結果を分かりやすく説明し、生活習慣の改善に結びつくよう指導しています。また、健康測定会、まちかど講座など様々な場所や年代等を意識し、生活習慣病に関する知識の普及を図っています。
- 事業所等では、従業員に健診の必要性を伝えるなど従業員の健康管理に努めています。

■主な取組の評価

- 特定健康診査を受診している人の割合は増加しています。健診の必要性を伝えるため、広報や個人通知での受診勧奨など、受診率を上げる取り組みをしました。
- がん検診の受診率は、目標は達成しませんでした。改善したものが多くあり、受診率は国や県よりも高い状況です。精密検査の受診率も胃がん、大腸がん、乳がんが悪化しましたが、子宮頸がんの精密検査受診率のみ目標は達成しました。
- 特定保健指導の実施率向上のために方法の変更などに取り組んでいますが、目標には達していません。また、メタボリックシンドロームの予備群・該当者も増加しています。

■今後の方向性

- かかりつけ医を推進するとともに、特定健康診査、がん検診の受診率や特定保健指導の実施率の向上につながるよう、属性にあわせた働きかけをしていく必要があります。
- 自分の健康状態について認識し、健康管理できるよう支援を継続していく必要があります。
- 各年齢層と健康状態に応じた、生活習慣病に関する知識の普及を図っていく必要があります。

3 健康を社会で支えよう

(1) 地域における健康づくり活動の活性化

第2次健康日本21 安城計画の取り組み目標

健康づくりの輪を広げよう

- 地域や社会とつながりを持ち、互いに交流できる人が増えることをめざします。また、団体や事業所、行政が協働し、市民主導の健康づくりの輪が広がる社会をめざします。

<指標の目標達成状況>

評価区分	A	B	C	D
指標数	0	0	0	1
構成比	—	—	—	100.0%

指標	現状値 2012 (H24)	目標値 2017 (H29)	最終目標値 2023	直近値 2017 (H29)	評価
①地域の活動に参加している人を増やす。(安城市地域福祉計画基礎調査)	18歳以上	21.9%	25.1%以上	30%以上	測定不能 D

■取り組んできた主な事業

事業名	担当課
町内会の活動支援	市民協働課
地域活動、ボランティア情報の提供	市民協働課、スポーツ課
老人クラブ活動支援	高齢福祉課
健康づくりリーダー養成補助、のびのび倶楽部活動支援	高齢福祉課、健康推進課
あんじょう健康マイレージ事業、健康づくりサポーター事業、健康づくりリーダー活動支援、健康の道ウォーキング、データヘルス推進事業、ヘルスマイト養成・育成講座	健康推進課
スポーツ推進委員の指導育成	スポーツ課
市民企画講座	生涯学習課

■主な取組状況

- 平成28年度から、市内で健康づくりの推進活動を行っている団体又は個人に対し「安城市健康づくりサポーター」として登録することをすすめることで、地域における健康づくり活動を担う人材を支援しました。
- あんじょう健康マイレージ事業では、地域のイベントへの参加にポイントを付与することで、地域での健康づくり活動へ参加するきっかけづくりとなりました。

- 中学校区ごとに1コース以上の健康の道（ウォーキングコース）を設置し、イベントを通じて、地域における健康づくり活動に参加するきっかけづくりをすすめました。
- 地域における健康づくりに参加しやすくするため、団体と事業所、行政が協働し、健康づくりのきっかけの場を提供するなど、地域における健康づくり活動を支援しました。
- データヘルス推進事業からみえた地域の課題を、各地域で共有し意見交換会を行いました。

■ 主な取組の評価

- 「健康に関する基礎調査」では、地域の活動に参加している人の割合が成人で37.3%となっており、平成24年度より、1.8ポイント下がっています。しかし、地域の活動に参加することが大切だと思っている人の割合は85.3%と高く、地域の活動に参加する必要性を感じながらも、地域の活動に参加できていない状況となっています。
- 平成29年度安城市地域福祉計画基礎調査によると、今後関わっていきたい活動として、健康づくりの活動が最も多い結果となっていることから、市民が地域で健康づくりの活動ができるような仕組みが必要です。

■ 今後の方向性

- 今後も、主体的に健康づくりに取り組む市民を増やし、地域の力を活かして健康づくりの輪を広げていくことが必要です。また、健康づくりを、市全体に広げていくため、団体や事業所、行政がつながり、地域での健康づくり活動を推進していく必要があります。